

伊豆東岸定置網における主要魚種の

平成 30 年上半期の漁況経過と下半期の漁況予測

1 平成 30 年上半期(1～6 月)の経過

(1) 総漁獲量

伊豆半島東岸大型定置網 7 か統（伊豆山、古網、川奈、富戸、赤沢、北川、谷津）における平成 30 年 1～6 月の魚種別月別漁獲量を表 1 に示しました。総漁獲量は 1,620 トンで、前年の 1.1 倍、平年（2000～2017 年平均値）の 75%でした。多獲された魚種は、さば類、ブリ、マイワシ、カタクチイワシ、イサキ、マアジでした。

(2) 魚種別漁獲量（ブリ・マアジ・さば類）

(ア) ブリ

ブリ（ぶり、わらさ、いなだ、わかし）の漁獲量は 462 トンで、前年比 99%、平年（2000～2017 年平均値）比 2.4 倍でした。銘柄別にみると、ぶりは 299 トンで、前年比 1.5 倍、平年比 3.2 倍、尾数ベースでは 48 千尾で、前年比 2.0 倍、平年比 3.8 倍でした。わらさは 144 トンで、前年比 64%、平年比 1.7 倍、いなだは 13.7 トンで、前年比 39%、平年比 1.1 倍でした。わかしは 5.1 トンで、前年比 1.2 倍、平年比 15.5 倍と、平年を大きく上回りました。

漁獲されたブリは、1 月はぶりおよび尾叉長 40～45cm のわかし主体、2～4 月は 70～80cm のぶり・わらさ主体、5 月は 60～65cm のわらさおよび 40～50cm のいなだ主体、6 月は 65～70cm のわらさ主体でした。

(イ) マアジ

マアジ（ジンダ銘柄を除く）の漁獲量は 27.2 トンと、前年、平年（1982～2017 年平均値）を大きく下回りました（前年比 33%、平年比 5%）。ジンダの漁獲量は 115kg と前年を上回りましたが、平年を大きく下回る（前年比 1.2 倍、平年比 2%）極めて低調な漁獲でした。

漁獲されたマアジは、尾叉長 15～25cm の 1 歳魚が主体でした。また、尾叉長 25cm 以上の 2 歳魚以上も漁獲され、これらは 4～5 月に多く漁獲されました。尾叉長 10cm 前後の 0 歳魚（ジンダ）は 5 月頃以降に見られました。

(ウ) サバ類

マサバの漁獲量は 401 トンで、前年の 5.5 倍、平年の 5.4 倍と前年、平年を大きく上回りました。月別にみると、4～5 月に漁獲量が多く、特に 4 月は前年比 16.7 倍、平年比 15.7 倍でした。漁獲されたマサバは尾叉長 30～40cm の 4 歳魚以上主体で、5 月以降は 10cm 前後の当歳魚も漁獲されました。

ゴマサバの漁獲量は276 トンで、前年の93%、平年（1982～2017 年平均値）の78%でした。月別にみると4～5 月を除き、前年、平年を大きく下回りました。漁獲されたゴマサバは尾叉長 30～40cm の2 歳魚以上主体で、4 月以降は15cm 前後の当歳魚も漁獲されました。

さばっこの漁獲量は3.0 トンで、前年の2.2 倍、平年の11%でした。

表 1 伊豆半島東岸大型定置網 7 か統魚種別月別漁獲統計 (kg)

魚種名(銘柄)	1月	2月	3月	4月	5月	6月	総計
ブリ(ぶり)	2,604	22,946	124,942	148,327	26	16	298,861
ブリ(わらさ)	598	11,842	49,433	55,691	7,939	18,818	144,321
ブリ(いなだ)	1,000	609	3,194	553	4,164	4,216	13,736
ブリ(わかし)	1,930	213	582	201	2,029	150	5,105
ヒラマサ	42	3	545	3,901	912	136	5,539
カンパチ	247	40	28	2,243	735	262	3,555
マサバ	2,337	6,648	31,328	222,540	131,214	7,124	401,191
ゴマサバ	13,425	6,220	7,192	52,571	185,109	11,293	275,810
さば類(さばっこ)	126	825	122	1,136	785	41	3,035
マイワシ	13	22,530	30,983	2	1,780	35,489	90,797
カタクチワシ	18	4	46,856	24	3,136	29,710	79,748
ウルメイワシ	461	924		260	1,027	2,934	5,606
マアジ	754	679	2,553	3,341	12,629	5,950	25,906
マアジ(小)	56	64	216	95	591	238	1,260
マアジ(じんだ)		1			8	106	115
イサキ	295	107	1,016	1,727	27,075	12,576	42,796
マルソウダ	981	11	1,420	50	22,645	337	25,444
ホウボウ	1,521	2,350	5,047	3,123	1,690	1,472	15,203
ムツ	123	146	819	1,067	5,793	3,303	11,251
イシダイ	2,374	2,057	3,994	1,467	234	69	10,195
アカカマス	424	84	28	866	2,047	3,496	6,945
サンマ	6,271	90	83	4			6,448
ウマツリハギ	143	1,928	1,758	663	46	11	4,549
シイラ					1,511	2,868	4,379
ふぐ類	722	191	178	50	647	2,357	4,145
サワラ	10		838	2,475	172	564	4,059
ヒラメ	307	533	1,395	874	666	278	4,053
トビウオ	1			60	2,407	1,263	3,731
マダイ	61	85	454	436	1,415	884	3,335
マルアジ	8				320	2,372	2,700
メジナ	331			939	561	534	2,365
カワハギ	272	46	181	360	588	85	1,532
カツオ						1,158	1,158
ハガツオ				9	111	967	1,087
スルメイカ	5,743	10,551	15,707	41,690	6,438	2,236	82,365
スルメイカ(こいか)					26	0	26
ヤリイカ	252	2,749	762	397	266	335	4,761
アオリイカ	1,175	405	268	1,003	1,853	438	5,142
その他	2,289	1,444	3,625	2,273	5,188	2,753	17,572
総計	46,914	96,325	335,547	550,418	433,783	156,840	1,619,827

2 平成 30 年下半年(7～12 月)の漁況予測

水産技術研究所伊豆分場は、神奈川県水産技術センターと共同で、平成 30 年下半年(7～12 月)の伊豆東岸定置網(相模湾)における漁海況を表 2 のとおり予測しました。

表 2 伊豆半島東岸大型定置網における平成 30 年下半年の漁海況

海況	黒潮は期間を通してA型で推移する。 沿岸水温は「平年並」～「高め」で推移し、黒潮からの 暖水波及発生時は「極めて高め」となる。
マアジ	漁獲は前年を下回る。尾叉長16～18cm主体。
マサバ	漁獲はゴマサバに混じる程度。尾叉長28～30cm主体。
ゴマサバ	漁獲は前年を上回る。尾叉長30cm以上主体。
マイワシ	漁獲は前年を上回る。被鱗体長10～15cm主体。
カタクチイワシ	漁獲は前年並み。被鱗体長9cm以下主体。
ブリ	漁獲は前年並み。わかし・いなか銘柄主体。

・海況

黒潮は、2017 年 9 月中旬以降、A 型の大蛇行流路が継続しています。相模湾における沿岸水温は、2018 年 1 月～3 月中旬は冷水域に覆われ「やや低め」を含む「平年並」、3 月下旬～4 月上旬は暖水波及の影響で「やや高め」～「高め」、4 月中旬～5 月上旬は「平年並」、5 月中旬～6 月中旬は暖水波及の影響で「やや高め」～「高め」で推移しました。その後、6 月下旬～7 月上旬は「平年並」となったものの、7 月中旬の暖水波及により、7 月下旬まで「高め」～「極めて高め」となりました。

2018 年下半年の黒潮は、大蛇行終息の兆候が見られず、A 型は継続すると予測しました。沿岸水温は、「平年並」～「高め」で推移し、暖水波及時は「極めて高め」となると予測しました。

・マアジ

近年、マアジ太平洋系群資源は低調に推移しています。伊豆東岸定置網における漁獲量についても、2010 年頃より減少傾向で推移しており、2018 年上半年は、不漁であった 1980 年代と同レベルの低水準となっています。

下半年には、16～18cm の 0 歳魚主体に、20cm 前後の 1 歳魚が漁獲されています。下半年の漁獲量は、同年上半期のジンダ漁獲量と比例関係にありますが、2018 年上半年のジンダ漁獲量は前年を下回ったことから、2018 年下半年の漁獲量は前年を下回ると予測しました。

・マサバ

マサバ太平洋系群資源は近年増加傾向で推移しており、伊豆東岸定置網における上半期の漁獲量は前年を大きく上回りました（5.5 倍）。

2001 年以降、下半期の漁獲量は 10 トン前後と少なく、概ね 28～30cm 主体に漁獲されています。そのため、2018 年下半期の漁獲量はゴマサバに混じる程度（ゴマサバ漁獲量の 1 割未満）と予測しました。

・ゴマサバ

ゴマサバ太平洋系群資源は近年減少傾向で推移していますが、伊豆東岸定置網における上半期の漁獲量は前年並でした。

2001 年以降、下半期には概ね 30cm 以上の 2 歳以上の成魚主体に漁獲されています。近年の傾向として、下半期の伊豆諸島周辺海域における棒受け網およびたもすくい網の漁獲量が多い（少ない）と、伊豆東岸定置網の漁獲量も多い（少ない）関係が見られ、平成 30 年度第 1 回長期漁海況予報では、「2018 年下半期は伊豆諸島周辺海域では 29～34cm（2 歳魚）のゴマサバが主な漁獲対象となり、来遊量は前年を上回る」としていることから、前年を上回ると予測しました。

・マイワシ

マイワシ太平洋系群資源は近年増加傾向で推移しており、伊豆東岸定置網における上半期の漁獲量は前年を上回りました。

近年、下半期には被鱗体長 10～15cm の 0 歳魚主体に漁獲されています。2018 年は 7 月の時点で漁獲量が約 200 トンと非常に多く、前年下半期を上回ったため、前年を上回ると予測しました。

・カタクチイワシ

カタクチイワシ太平洋系群資源は近年減少傾向で推移しており、伊豆東岸定置網における上半期の漁獲量も前年を大きく下回りました。

近年、下半期には被鱗体長 9cm 未満の未成魚主体に 9～11cm の小型成魚も漁獲されています。例年、下半期の漁獲量は概ね 100 トン前後で推移していることから、2018 年下半期の漁獲量は前年並と予測しました。

・ブリ

ブリ太平洋系群資源は近年高水準で推移しており、伊豆東岸定置網における漁獲量も高い水準にあります。

下半期は、わかし・いなだ銘柄主体に漁獲されており、同銘柄の上半期と下半期の漁獲量には比例関係があります。今年上半期のいなだ・わかし銘柄の漁獲量は前年を下回ったことから、下半期は前年を下回ると予測しました。

（鈴木勇己）